一向一揆ゆかりの地を訪ねる
# 一向一揆紀行

## 第１７回
# 国吉城（佐柿城）
### （福井県三方郡美浜町佐柿）

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト　塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は令和８年９月に研修旅行で行った美浜町の国吉城を紹介します。当日は徒歩２０分ほどかかる山上の国吉城には登りませんでしたが、山麓に建つ若狭国吉城資料館で学芸員の方に展示物の説明していただきました。常設展示室では国吉城の模型を見ながら城山の立地について、丹後街道を広く見渡せること、その丹後街道が北東に延びる尾根先端に築かれた支城岩出山砦との間の尾根鞍部を通る峠道と北西に延びる尾根鞍部を通る椿峠の２つの峠道という軍事上の要所を抑えていること、北麓の機織池が堀の代替となって北側からは攻められないと特徴をわかりやすく説明を受けました。


若狭国吉城歴史資料館にて説明を受ける

国吉城は弘治２年（１５５６）若狭国守護武田氏の家臣であった粟屋勝久が築きました。武田氏の家督争いから生じた内乱で、縁戚の朝倉氏を頼る一派（親朝倉派）と朝倉氏の影響力を排除する一派（反朝倉派）は対立し、反朝倉派に与した粟屋氏は国吉城に籠城して永禄６年（１５６３）から約１０年朝倉氏の若狭国侵攻に耐えました。国吉城の「難攻不落」のイメージは、自らも参戦した地侍田辺平太夫安次が江戸初期にまとめた軍記「国吉籠城記」として世に広まりました。永禄１３年（１５７０）４月２０日室町幕府将軍足利義昭の上洛命令に従わない若狭石山城主武藤友益の討伐を名目に、２２日織田信長は湖西から熊川に入る。翌２３日元号が元亀と改まり、熊川を発した軍勢は武藤氏のいる大飯郡ではなく朝倉氏の統治する敦賀郡へ向かいます。国吉城主粟屋勝久は倉見峠（三方郡と遠敷郡の郡境にあり平成の大合併で三方町と上中町が合併して三方上中郡若狭町となる）まで信長を出迎えて国吉城で３日間軍議を重ねました。２５日勝久も共に出陣して天筒山城を１日で落とした信長であったが、翌２６日金ヶ崎城を降伏開城させたところに義弟の小谷城主浅井長政裏切りの報が入った。信長は疋田から進軍する浅井軍に退路の丹後街道を塞がれることを警戒して難攻不落の国吉城までの撤退を決め、信長自らは１０人程度の家臣を従え一気に熊川から朽木谷を抜けて３０日に帰京しました。

天正１１年（１５８３）国吉城主となった羽柴（豊臣）秀吉の家臣木村常陸介定光（重茲）は国吉城の改修に取掛かり、山上部に石垣を築きました。国吉城は元和元年（１６１５）の一国一城令で廃城になったと考えられています。

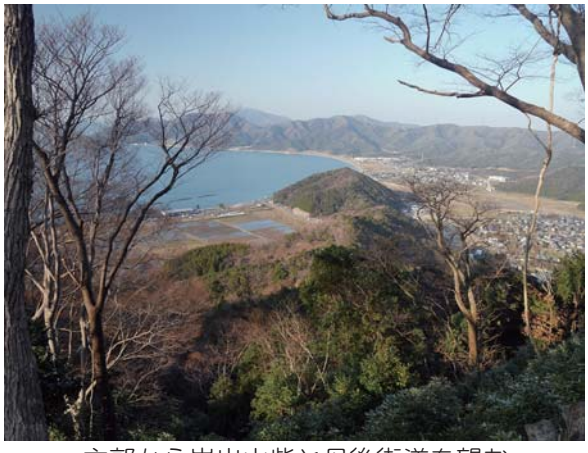
平成２９年（２０１７）公益財団法人日本城郭協会の「続日本１００名城」に選ばれています。

参考資料
若狭国吉城
歴史資料館
ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ･ﾁﾗｼ
ほか



資料館内で押せる
重ね押しスタンプ


国吉城主郭


主郭から岩出山砦と丹後街道を望む